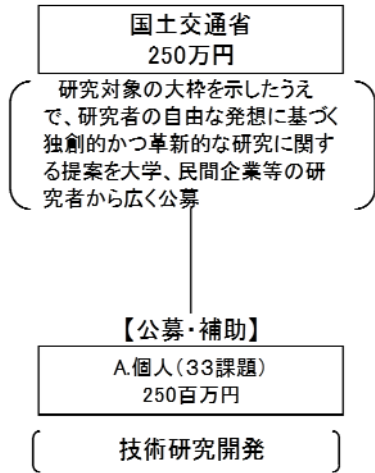


平成23年行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	建設技術の研究開発助成経費		担当部局庁	大臣官房	作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成13年度～		担当課室	技術調査課	課長 横山晴生		
会計区分	一般会計		施策名	技術研究開発を推進する			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	第4期科学技術基本計画(H23.8閣議決定) 国土交通省技術基本計画(H20.4)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	建設技術の高度化および国際競争力の強化、国土交通省が実施する研究開発の一層の推進等に資する技術研究開発に関する提案を大学、民間企業等の研究者から広く公募し、優秀な提案に対し助成する「競争的資金制度」により、広範な領域における建設分野の技術革新を可能とする環境を整備する。もって研究開発の成果による効率的・効果的な住宅・社会資本整備が推進されることを目的とする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<p>本助成経費は、我が国の直面する国土交通行政に係る課題の解決に資する研究開発テーマを示したうえで、研究者の自由な発想に基づく独創的かつ革新的な研究に関する提案を大学、民間企業等の研究者から広く公募するもの。この応募課題について、外部有識者からなる「建設技術研究開発助成制度評価委員会」による外部評価を経て、優秀な提案に対し補助金を交付する。</p> <p>【補助率】 定額</p> <p>【実施状況】 <平成20年度採択課題数> 基礎・応用研究開発公募28課題、実用化研究開発公募9課題、政策課題解決型技術開発公募6課題 <平成21年度採択課題数> 基礎・応用研究開発公募30課題、実用化研究開発公募8課題、政策課題解決型技術開発公募10課題 <平成22年度採択課題数> 基礎・応用研究開発公募14課題、実用化研究開発公募12課題、政策課題解決型技術開発公募7課題</p>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算の状況	当初予算	500	500	250	250	270
		補正予算	-	-	-	-	-
		繰越し等	-	-	-	-	-
		計	500	500	250	250	-
	執行額	500	500	250	-	-	
執行率(%)	100.0%	100.0%	100.0%	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	当該年度に事後評価(外部評価)を実施した課題(前年度に研究を終了した課題)のうち、「目標を達成した技術研究開発課題の割合」を成果指標とし、80%以上達成することを目標とする。	成果実績	達成割合(%)	100	100	92	80
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	年度ごとの採択課題数を活動指標とする。 (本事業は、公募を行い、優れた提案に対して助成するものであり、採択課題数については、採択課題の申請額から決定される交付金額により定まるため、当初見込みを定めることはできない)	活動実績 (当初見込み)	課題	53	48	33	-
単位当たりコスト	単位当たりコストを示すことができない。 (理由)本事業は、優秀な提案に対し補助金を交付するものであり、実施する課題ごとに必要な金額を交付しているため、単位当たりのコストを評価するのに適さない。						
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	技術研究開発費補助金	250	270	H23年度公募において、新成長戦略等を踏まえ、「地域イノベーションの創出」に資する地域の実情に応じた地域課題解決型テーマ(政策課題解決型技術開発公募中小企業タイプ)を新たに創設し、採択倍率7倍にもなる課題数の応募がなされた。平成24年度においては、平成23年度に新規採択した課題のうち、優秀な課題として約半数に絞り込みを行った上で、本格的な研究開発として助成を実施予定。一方、平成24年度においても、新成長戦略や科学技術基本計画で重要視されていることを鑑み、新規採択課題数を今年度と同等規模確保することを予定しており、そのために必要な予算額を計上している。			
	計	250	270				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p><目的・予算の状況> ・これまでの技術研究開発の成果反映状況を踏まえ、更なる実用化促進のため平成23年度に基礎・応用分野を完全に廃止し、政策課題解決型への重点化を図ってきたところ。政策課題解決型の技術研究開発テーマについては、新成長戦略や科学技術基本計画等の国の目指すべき方針を踏まえ、国土交通行政の課題解決上、必要性・重要性の高いテーマを設定している。さらに、審査を適切に実施することで研究開発の実効性の向上に努めている。</p> <p><資金の流れ、費目・使途> ・本省において予算を執行しており、大学、民間企業等の研究者から広く公募を行い、採択課題の選定に当たっては外部有識者から構成される「建設技術研究開発助成制度評価委員会」により、研究開発に係る費用の使途も含めて審査していただいている。</p> <p><活動実績、成果実績> ・「目標を達成した技術研究開発課題の割合を80%以上とする」という成果目標が達成されている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善④	<p>研究開発の評価等に当たっては、これまでの助成の成果によってどの程度、住宅・社会資本整備の効率化・効果向上が図られたかを検証し、改善効果の低い分野への助成を見直し、緊急性の高いものに重点化する視点を持って改善を図る。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>公募テーマについて、過年度の助成課題の実用化状況や科学技術基本計画等を踏まえ、必要性・緊急性の高いものに重点化を図った上で、必要な予算を計上する。</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入



資金の流れ
（資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する）（単
位：百万円）

A. 東京大学 上坂 充			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
設備備品費	研究開発に供する器具機械類等	11			
間接経費	管理部門の経費等	5			
謝金・賃金	研究補助者等への支出等	3			
消耗品費	消耗機材等	1			
旅費	旅費等	0.4			
その他経費	印刷製本費等	0.4			
計		20	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東京大学 上坂 充	X線ライナックを搭載した量子ビームロボットを用いた橋梁部材のCT計測システムの開発	20	—	—
2	東京大学 前川 宏一	非線形疲労応答解析に基づくコンクリート系橋梁床版の余寿命推定システム	19	—	—
3	九州大学 中原 浩之	実在文教施設の加力実験に基づく低コスト耐震補強法の開発	18	—	—
4	京都大学 林 春男	道路空間上の移動体に対する局所的大雨情報の伝達システムの開発	12	—	—
5	大阪大学 小泉 圭吾	無線センサネットワークによる多点型土砂災害予測システム	11	—	—
6	九州大学 小松 利光	山間遊水池としての洪水調節専用(流水型)ダムの高機能化に関する研究	11	—	—
7	京都大学 河野 広隆	アジア諸国を対象とした社会資本アセットマネジメントのデファクト標準化戦略	11	—	—
8	京都大 杉浦 邦征	メカニカル亀裂ストッパーを用いた鋼橋の緊急・応急補修技術の開発	10	—	—
9	三重大 畑中 重光	構造物の表層強度分布測定装置および含浸強化剤の開発研究	10	—	—
10	東京理科大 龍岡 文夫	高品質盛土を保証する施工管理技術に関する研究	9	—	—